

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童療育教室らふいん			
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～	令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～	令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・プログラム教材が充実している。	・月1回プログラムを更新している。 ・外出支援や余暇活動を固定化（マンネリ化）しないよう工夫している。	・保護者を含めた地域支援活動に力を入れたい。
2	・毎週、活動の様子を個別で保護者へ周知し写真を送信している。	・利用があった翌日（翌営業日）に保護者へ連絡・写真を送信することで、常に新しい情報をお届けできるよう工夫している。	・気軽に保護者が事業所へ足を運び、子どもたちの様子を伺える環境設定。
3	・教員免許者の人材確保。 ・学習支援の手厚さ。		

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門性の支援提供。	・専門的支援の実施、導入。	・現在、資格取得サポートとして研修費用の補助や勤務時間内での受講を認めている。今後も引き続き、職員の知識獲得を狙いとする資格取得サポートをさらに拡充させていくとともに、専門職の人材確保に努める。
2	・保護者への周知手段・方法。	・広報を行っているが、保護者への周知が上手く行えていない気がする。	・より広報を広めるためのネットワークの整備。
3	・経験の浅い職員が多いので、支援のムラを感じる。	・情報共有は図れているが、スキルアップを図る機会が少ない。	・支援に必要な講習や演習の機会を設けたい。